

第79回企画展

『まゆ』から『糸を繰る』

～日本の近代化に貢献した製糸とシルクの特徴～



平成31年1月11日(金)～平成31年3月30日(土)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

江戸時代から、県内の養蚕農家は上質なまゆは商人に売り、残った規格外のまゆを使って布を織り、生活に使用してきました。

このように養蚕農家が行っていた手仕事は地方の文化と融合して独自の発展をとげ、全国に特色ある紬産地ができました。岩手にも南部紬や千厩紬などの紬産地がありました。

養蚕の歴史と蚕具を紹介した第77回企画展に引き続き、今回の企画展では、養蚕農家が“まゆ”から“生糸”を繰るために使用した道具と、糸繰り技術やシルクの特徴について紹介します。



コウ巻きした絹糸(絹ベそ)



座繰り器



足踏み式座繰り器



南部紬



糸 枠

岩手県立農業ふれあい公園

農 業 科 学 博 物 館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)があります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台